

=====

THE VEDANTA KYOKAI  
ヴェーダーンタ協会  
日本ヴェーダーンタ協会の最新情報  
2004年6月 第2巻 第6号  
<http://www.vedanta.jp/multimedia/pdf/newsletter/index.html>

=====

## 目次

- ・ かく語りき 聖人の言葉
- ・ 先月の行事
- ・ 5月の例会 午前の部  
上智大学教授 シリル・ヴェリアット神父の講話  
「ゴータマ・ブッダ、イエス・キリスト、シュリ・ラーマクリシュナについて」
- ・ 今月の思想
- ・ 5月の例会 午後の部
- ・ スワミ、マニラで講話
- ・ 忘れられない物語
- ・ お知らせ

.....

## かく語りき 聖人の言葉

「わたしは、平和をあなたがたに残し、わたしの平和を与える。わたしはこれを、世が与えるように与えるのではない。心を騒がせるな。おびえるな。」  
イエス・キリスト

「一体なぜおびえているのだ。神への揺るぎない信仰を持ち続けなさい。この世がいばらの森のようだから何だというのだ。靴をはいていばらの上を歩けばいいだけだ。一体誰を恐れているのだ。」

シュリ・ラーマクリシュナ  
ブッダ

.....

## 先月の協会の行事

生誕記念祝賀会とシンポジウム（東京・池袋）  
スワミ・ヴィヴェーカーナンダ 第142回生誕記念祝賀会  
ホーリーマザー シュリ・サラダ・デヴィ 第150回生誕記念祝賀会

日時： 6月13日（日） 午後2時～5時半  
場所： 豊島公会堂 東京都豊島区東池袋1-19-1

歓迎の挨拶： スワミ・メダサーナンダ

シンポジウム： 「ホーリーマザー シュリ・サラダ・デヴィの生涯と教え」

パネリスト 山田泰子氏、松井ケティ教授、アジャンタ・グプタ氏

進行者 奈良毅教授

駐日インド大使マニラル・トリパティ閣下による、定期刊行物「不滅の言葉」特集号と誘導瞑想のCDの公開、およびスワミ・ヴィヴェーカーナンダに関するスピーチ

司会： 平野久仁子氏

祝賀会のプログラムには、数分間の瞑想ガイド、日本人およびインド人グループによる賛歌、シュリ・サラダ・デヴィのスライド上映などが含まれています。

展示物： ヒンドウイズム、瞑想、ラーマクリシュナ、ヴィヴェーカーナンダに関する日・英両語による書籍。その他、CD、音楽カセットテープ、写真、線香。

.....

5月の例会 午前の部

「ゴータマ・ブッダ、イエス・キリスト、シュリ・ラーマクリシュナについて」

5月16日、日本ヴェーダンタ協会は、逗子の例会でブッダの生誕祝賀会を行いました。当日は、協会の長年の友人である、上智大学教授シリル・ヴェリアット神父に、「ゴータマ・ブッダ、イエス・キリスト、シュリ・ラーマクリシュナについて」という演題でご高話いただきました。ヴェリアット神父はインドのご出身で、大学でインド思想・文化、インド神秘主義、インド芸術史における神話と伝説について教えていらっしゃいます。また、協会のヴィヴェーカーナンダ生誕記念祝賀会実行委員でもあり、毎年行われる生誕記念祝賀会では何度もパネリストを務めていらっしゃいます。

午前の部はヴェーダ朗唱、ブッダの教えの英日朗読で始まり、スワミ・メダサーナンダのハーモニアに合わせてサンスクリット語のお経『Buddham Saranam Gachchhami（私はブッダに帰依します）』を詠唱しました。

スワミがヴェリアット神父を簡単に紹介し、神父はこの日のために準備されてきた内容を日本語で話されました。「紀元前六世紀は世界の歴史において非常に注目すべき時代です。世界各地で、偉大な哲学者、思想家、宗教の創始者など優れた人物が数多く生まれました。」「ギリシャでは、パルメニデス、エンペドクレス、ピタゴラスらが生まれました。イスラエルでは預言者イザヤが、ペルシャではゾロアスター教の開祖・ゾロアスターが生まれ、中国では儒教の開祖・孔子、道教の開祖・老子が生まれました。そしてインドでは、ジャイナ教の開祖・マハーヴィーラと、仏教の創始者・ゴータマすなわちブッダが生まれました。」

神父は、仏典に出てくるさまざまなブッダの呼称を説明され、ブッダの生涯、悟り、教えのポイントについていろいろお話されると、講話のテーマである偉人三人の比較論に話を移されました。「ブッダ、シュリ・ラーマクリシュナ、イエス・キリストの三人を比べると、いくつか共通点もある一方、相違点もあります。

共通点としては、まず、三人とも愛に基づいて教えを説き、教えに寓話やたとえ話を巧みに織り交ぜたことです。その話の切り口は非常に似通っており、世界中に知られるようになった話もあります。たとえば、ラーマクリシュナの盲人と象の話、キリストの放蕩息子の話、仏教のジャータカ物語はどれも神のご性質を示したものです。」

「また、裕福な友も貧しい友もいたことも三人の共通点です。キリストの熱心な弟子には売春婦であるマグダラのマリアが、ブッダの優秀な弟子には売春婦アムラパリがいます。この二人の女性はどちらもお金があり、すべてを自分の師に寄付しました。同様にラーマクリシュナの弟子にも社会に受け入れられない者が数多くいました。」「さらに、三人とも優れた弟子に恵まれました。イエスの弟子・パウロは偉大な哲学者でキリスト教創始者の一人です。ラーマクリシュナの弟子・ヴィヴェーカーナンダとラーマクリシュナとの関係は、パウロとイエスの関係に似ています。」「ヴェリアット神父は、こうした師と弟子の関係に加えて、優れた弟子がどちらも偉業を成し遂げ、師の教えを広めて世界に影響を与えたことにも触れられました。

神父は最後にこう言われました。「注目すべき重要な点は、ブッダ、ラーマクリシュナ、イエス・キリストは皆アジア人だということです。キリスト教は歴史上のさまざまな理由から西欧諸国の宗教となっていますが、イエス自身はアジア人です。これについてマハトマ・ガンジーは、キリスト教を西洋に運んだのは弟子の聖パウロだと言っています。キリスト教は西洋世界に入ると王や皇帝の宗教となりました。キリスト教が西洋に広まるのがそんなにも早い時期でなければ、おそらく仏教となんら違いはなかったでしょうし、ヒンズー教のいくつかの宗派とも同じようなものになっていたでしょう。」

(午前の部 終わり)

.....

## 今月の思想

成功者とは、他人に投げつけられたレンガで強固な礎を築く者である。  
(出典不詳)

.....

## 5月の例会 午後部

昼食に日本料理とインドのカレー料理をおいしくいただき、各自、休憩や読書、歓談を楽しんだ後、午後部の参加者は三時に礼拝室に集まりました。ヴェリアット神父はすでにお帰りになっていましたが、午前の部で拝聴した興味深いお話について、スワミは皆の前でもう一度神父に感謝の言葉を述べました。

スワミは、ブッダ、イエス・キリスト、シュリ・ラーマクリシュナの共通点に関する神父のお話を取り上げ、放棄の精神の強さも三人に

共通して見られる際立った特徴であると付け加えました。

続いてスワミは、仏教の教えが神について語っていないという参加者からの指摘を受け、こう答えました。「これは、哲学者を始め多くの学者の解釈にしばしば見られる誤りです。ブッダは決して無神論者ではありません。それどころか最高の霊的真理を悟っていました。ブッダは議論や哲学的思索を嫌い、そうした行為を非難していました。あれこれ議論し思索することは学者の道楽だからです。ブッダの興味の対象は理論ではなく霊性の実践です。」これに関してスワミはシャンカラチャリヤの有名な一節を引用しました。

ゴヴィンダ（主）を愛せ、ゴヴィンダを敬え、  
ゴヴィンダを礼拝せよ  
ああ、愚かなる者  
死が訪れたとき  
学術的探求はお前を救いはしない

「矢を射るとしましょう。その矢が的を射さえすれば、誰がどんな風に矢を射たのかなど関係ありません。ブッダの教えでは、人生における肉体的、精神的、霊的問題を解決する実践的な問題が示されています。伝え方は目新しいものでしたが、ブッダの教えには他の宗教と共通する点が数多くあります。特に、ブッダが生まれ育ったヒンズー教との一致点は多いのです。」「献身的な深い愛というものは仏教には存在しないのでしょうか。」スワミは皆に問いかけました。「強い愛がなければ、霊性の生活において進歩はありません。信仰と愛は互いに結びついたものです。ブッダ、キリスト、シュリ・ラーマクリシュナの弟子たちの大きな愛を見れば分かることです。」

「実際には、愛または信仰には四つあります。まず、自分への愛、これは自信ともいえます。次に師への愛と献身。三つ目が聖典への信心。最後が神への信仰と献身的な愛です。ブッダの没後、信者らはブッダに祈り、帰依しました。その後数百年にわたり、信者らは皆深い愛を捧げ、ブッダを神として礼拝しました。こうして仏教において祈りや献身的な愛が当然のものとなったのです。」

「また、ブッダは慈悲の象徴でもありました。その慈悲の心は人間だけでなく動物にも向けられました。かつてヒンズー教では宗教という名のもとに動物を生け贄にすることが当たり前となっていました。ブッダはこれに対して批判的で、宗教体験には必要でないと言い切りました。ブッダの影響により、動物を生け贄にすることはほとんどなくなりました。」

午後の部は、スワミの、日本語による誘導瞑想で終わりました。

.....

スワミ、マニラで講話

(マニラのエンリコ・コロポ氏寄稿)

数人の信者の招きに応え、スワミ・メダサーナンダジが3度目のマニラ訪問を果たされました。マハラジは5月7日(金)の午後9時45分頃マニラに到着され、9日(日)の午後2時30分にはマニラを出発し東京へ戻られるという、48時間にも満たない滞在の、実にお忙しいスケジュールでした。

5月8日(土)の午後、マハラジは「心とそのコントロール」というテーマでお話くださいました。参加者は約四十人。大半はフィリピン人でしたが、マニラ在住のインド人とイタリア人もそれぞれ三名ずついました。参加者の半数は、マハラジが2002年と2003年に来訪された際の講話を拝聴しています。残りの半数は初参加の方々に、『Manila Bulletin(フィリピンの主要日刊紙)』の記事や告示欄を始めとするさまざまな情報源から講話の開催を知ったそうです。今年の会場は、普段ダンスやヨガ体操などに利用されている広々とした部屋で、過去二回の講話会で利用したホテルの会議室より適しているように思えました。

マハラジの講話は一時間十五分。具体例などいろいろな話を交えた、興味深いものでした。短い休憩をはさんで質疑応答が行われた後、誘導瞑想を行いました。マハラジと一緒に床に座り、四十五分間瞑想しました。最後に、『普遍の祈り(Universal Prayer)』を詠唱しました。原語のサンスクリット語でマハラジが、続いて英語で参加者が詠唱しました。講話会は成功を収め、これまでで最も参加者が多いものとなりました。

三時間半の講話会の後、近くのインド料理店でマハラジを囲み二十人ほどで夕食を食べました。その店は料理がおいしいことで有名でしたが、シェフがインド人ではなくフィリピン人だと聞き、マハラジは料理を褒めお礼をおっしゃいました。

マニラの信者は少数ですがその数は増えております。マハラジのこの三度目のご訪問とご講話に大変感謝しており、近いうちにまたフィリピンでお目にかかれればと思っております。

.....

忘れられない物語

農夫の頼み事

農夫が天台宗の僧侶に、亡くなった妻のためにお経を読んでほしいと頼みました。読経の後、農夫は僧侶に尋ねました。「これで女房に何かご利益があるんですかね。」

「あなたの奥さんだけでなく一切衆生に、この読経のご利益があるのですよ。」僧侶は答えました。

すると農夫は言いました。「女房はあの世ですっかりやつれているかもしれな

いのに。これじゃ周りに利用されるだけだ。女房に行くはずのご利益が横取りされちまう。お坊様、女房のためだけにお経を読んでくださらんか。」

僧侶は、仏教に皈依した者は生きとし生けるものすべての幸せを願うものだと説きました。

「ありがたいお話じゃ。」農夫は言いました。「じゃあ、一つお願いじゃ。うちの隣に、意地の悪い乱暴者がある。こいつを一切衆生からはずしてくださらんか。」

( 仏教の言い伝え )

.....

お知らせ

ウェブサイト日本語の新CD『DYANAM』（瞑想）が公開されます。

=====

発行：日本ヴェーダータ協会  
249-0001 神奈川県逗子市久木 4-18-1  
Tel：046-873-0428  
Fax：046-873-0592  
Website: <http://www.vedanta.jp>  
Email: [info@vedanta.jp](mailto:info@vedanta.jp)  
[KENB013J]

ニュースレターをご希望でない方はこのまま返信してください。メールアドレスを削除します。

=====